

『私たちに託された税金』

練馬区立開進第一中学校 二学年 浅沼 咲希

私たちは毎年進級することに新しい教科書をもらう。今年は何を学ぶのだろう、新しく増えた教科ではどんなことを知るのだろうと想いをふくらませる。そんな身近にある教科書だが実は税金によって無償で支給されている。その他にも設備や備品など公立学校の中学生一人当たり年間約一〇〇万円が税金によって負担されている。毎日学校で授業が受けられることは当たり前なことではなく税金の恩恵に支えられているということを実感した。

私は今、中学二年生だ。義務教育期間を終え、来年は高校へ進学するだろう。高校へ行くっても私たちの教育はたくさんの方面で税金に支えられることになる。例えばその一つにSSH(スーパーサイエンスハイスクール)がある。将来の国際的な科学技術関係に携わる人材を育成するために、文部科学省より平成十四年から始まった先進的な理数教育を受けられるカリキュラムだ。ここでは最新の設備が整った環境で様々な実験を行い研究

することが出来る。SSHに指定された高校の学校見学会に行った時、生徒が興味を持ったことに三年間熱心に研究をし、まとめたレポートを読んでとても魅力的に感じた。興味をもったことをより深く学ぶ機会も税金によって支えられていることに私は驚いた。

そして、高校卒業後に進みたいと考えている国公立の大学や大学院の授業料も税金で支えられている。同じく研究という視点でみると、それらの大学に所属する教授たちの研究にも科研費(学術研究助成基金助成金/科学研究費補助金)という税金が使われている。研究で使う機械や実験器具などの設備を整えるには高額のお金がかかる。そこを国が税金によってサポートしてくれるからこそ、今までの日本の科学が大きく発展してきたのだと思う。

このように税金は私たちの学びを支えるとともに、その学びが実際に日本の発展につながっている。私も将来、研究によって人の暮らしをよりよくする仕事に携わりたいと

思っている。そう考えられるのは税金によってたくさんの方の選択肢を私たちは与えられているからだと思う。そしてどの選択肢を選んだとしても私はこれからも税金によって支えられていくだろう。その時はこの恵まれた環境が当たり前ではないことを忘れないようにしたい。十分な教育が受けられること、好きなことを深く学べることに感謝しながら、そこで学んだことをこれからの社会の発展につなげていきたい。地球温暖化や少子高齢化といった大きな社会問題を抱える中で、私たち一人一人の果たす役割は大きい。責任感をもって日々たくさんの方のことを学んでいきたい。